平成27年(2015)

阿づまの光

5月号・Majo

題字出口直日

通巻第554号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦
〒110-0008
東京都台東区池之端2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

五代教主作 灰釉茶盌 銘「七福神・弁財天」
【ヨルダン土＋本宮山桜釉】

農は国の大本（たいほん）

東京宣教センター次長　猪子　恒

東京宣教センターには、プランターが10個ほどあります。昨年8月、浅田秋彦センター長から引き継ぎました。4月中旬、埼玉の支部長Sさんの指導を受けながら、トマト、ナス、キュウリ、ピーマンなど、夏野菜の苗を植えました。

先立つ3月末、Sさんと一緒に土作りをしました。その一週間ほど前、昨年のプランターの土をブルーシートにひっくり返し、その上に腐葉土を蒔いて、天日干ししました。

土作りは、少量の石灰を振り、スコップを使って土を切り返す作業。この日は晴天で、わずかな作業でも汗ばんできます。2回ほど切り替えた土を、まず5㌢ほどプランターに入れ、固形の「油粕」を、さらに土を5㌢くらい入れ、今度は「明星」をたっぷりと蒔いて、その上に土をかけて「プランター畑」は完成。それから3週間、植え付けが完了したのでした。

この日から、日課の「水遣り」が始まります。成長する苗に合わせ、添え木の「くくる場所」も変えます。その後、2㍍を超える本格的な支柱を立て、ネットも張り、成長を待ちます。やがて1個、2個と収穫ができるようになります。初物はもちろん、ご神前にお供えをさせていただきます。肥料を切らさぬよう追肥をしながら、晩秋まで続く収穫を楽しみます。

今、大本はTPP交渉に断固反対しています。理由は聖師さま「人類生活の根本原料なる食料品は、おのおの天賦的に発生する土地の生産物をもって、需要供給の原則とすることは、世界的通義」。三代教主さま「日本の立直しはどうしても―お土を大切にすること―から始まらなければと思います。政治は、百姓を大切にしてこそ、ほんとうの正しい政治が行われるのです。農を中心にしてこそ、国の経済も文化も、本当に立直る…」によって明白です。農業を衰退させてはなりません。このままでは日本精神が失われ、日本の存在にかかわる大問題なのです。

小さな「型」ですが、日照時間が少なく、時には強烈なビル風にさらされながらも、けなげに育つ夏野菜たちに、今年もエールを送りたいと思います。お土に感謝しつつ・・・。

今月の聖言

このかみと名に負ふ梅は雪霜を
忍びて春のさきがけと咲く

出口王仁三郎聖師

大本公開講座

激動のなかに見えてきた明るい未来

～日本と世界は今どこにむかっているのか～

株式会社あえるば会長
・経済アナリスト
藤原直哉

本当の平和とは？

最近、国内外を問わず凄惨な事件があとを絶ちません。平和をもたらすための一番のポイントは、各国、各地域がそれぞれの衣食住を安定させて、そのなかで安心に暮らせることです。弱肉強食の経済ルールを改め、砂漠に植林をして川をつくるなど、自給自足の生活を目指して、お互いに助け合っていく精神と活動が大事です。現代の技術があれば、そんなに難しいことではないし、時間もかからないと思います。

宇宙の根源は一元

世の中の根源は「二元」であるという考え方があります。それはつまり、物事には初めから善と悪というように相対する二つがあるという考え方です。

日本古来の神道はその反対で、元は一つという「一元論」の考え方です。宇宙の根源は一つで、創造により天地が分かれ上下、左右、昼夜とどんどん分かれ進展し続けているのです。

要するに元は一つで、離合集散を繰り返しながら、万物は毎日生きています。

二元論という運動

二元論は運動の法則ともいえます。物が落ちるのは、高いところと低いところがあるからであり、天と地に分かれている証拠ともいえます。また、病院で診察を受け、健康であれば安心するのに対し、異常があると、その病気を治そうという運動をつくるきっかけになります。

こういった意味でも二元論というのは、運動するには非常に良いのですが、これを対立する勢力として政治で行おうとすると、ある人からは抵抗勢力と言われ、攻め滅ぼされるだけになってしまいます。要するに壊される対象でしかないのです。この二元論しかない政治家は、ほかに敵を作らないと、自分を表現できない、「あいつは悪い」「自分は正しい」という論法となり、結局最後はバラバラになってしまいます。誰かを敵にして頑張るという思考を改め、自分の理想にめがけて頑張ってくださいと私は言いたいのです。

二元論は進展しない

政治の原点は民の幸せですから、それを真摯に受け止めて、何をするべきかを考えて、自分で道を切り開いていけば、よいのです。まず、自分を磨き自身が素晴らしい人になろうと心がけることが大事です。善悪を決めつけ二元論で人を敵にして喜んでいたらどうしようもないのです。相手を理解することができないから揉めるのです。敵がいないと自分が生きている気がしないから、敵を見つける。二元論の地獄とはこのことです。これでは物事は発展しません。

原点に立ち返る

大本でも、この世の根源は一つと教えています。神は元々一柱で、おはたらきに応じて、分かれているのです。八百万の神も、元は一神から生まれたのです。人類を含め万物は、神の分霊・分体といわれ、一つの根源から生命を授かっています。自然の神の恵みを表したものであり、その中で私たちは生きている。これが原点のはずです。このことを悟ることができたら、その瞬間から間違いなく感謝と祈りが生まれます。

元は一つであるという考え方を共有して、これから先は何かを生まなければいけないと思います。それが〝大和合〟の精神です。

大和合の根本は、世の中は一元であり敵も味方もなく、手に手を取り合って協力していくということです。

大和合の精神

そこに二元論という必要な運動が加わるわけですが、重要なのは相反する力に分かれることは、世の中を進めるために必要な運動エネルギーだったんだと、終わったときに理解できるかどうかです。そういう意味で最後に一つに還ればいいと思うのです。

このことが、本当にお腹から理解できていないと、正しい判断も行動もできません。ですから、どんなに憎い相手でも、どんな揉めごとでも「はい、これでおしまい」とまるく納めるかどうかなのです。真にこの世が一元の世界と信じているか、それとも二元の世の中が正しいと思っているかで、まったく違ってくると思います。

進展のために運動し、揉めるのは仕方ないですが、それで善悪を分けてはいけません。二極分化したものが、さらに言い分により、分かれてしまうこともあります。問題があったら、お互いに話し合いをして大和合の精神で解決すればいいのです。

最初は〝日本合衆国〟だった

近代文明により、現代は方向性が細かく分かれましたが、区別することのみに執着すると、崩壊が始まります。ですから、分解したものを一つに融合していく働きが必要になります。

日本も元々、縄文時代の終わり以降に朝鮮半島や中国大陸などから、いろいろな人が日本列島に渡りました。はじめは、いわば〝日本合衆国〟だったのです。つまり、今の日本は遺伝子が混ざっている状態と言えます。それぞれが住み着いた頃は合衆国の時代で、それが融合して一つの国を形成しました。さまざまなものが融合しながら、日本人の精神文化を築き上げ、現代の生活に自然と織り込まれているのです。

個が全体をなす

世界中に「今だけ、金だけ、自分だけ」という思考が蔓延（はびこ）っていますが、要するにこの考え方を越えればいいのです。

今だけじゃない、過去も未来もある。金だけじゃない、伝統には各々の価値観がある。それを全部混ぜてしまえということではなく、全てのものは、元は一つから生まれたという考え方が必要ということです。

それぞれが生きるためには、そのふさわしい場所があるのです。自分たちの境域を作りながら、いろいろなものが集まって全体が成り立っている。それが自然本来の姿です。水辺の草花も、乾いた土地の植物も、みなそれぞれに、その土地の良さを活かしながら生きているのです。

みろくの世の姿

助け合いの精神で、衣食住の基礎から築き上げないと、世の中は良くなりません。世界には70億もの人がいます。技術や知恵を入れて、新しいものあれば、さらに投入してお互いが歩み寄っていく。これこそが、日本の仕事、使命じゃないでしょうか。

これは、日本再生に関わることなのです。同時に世界再生でもあるのです。一番大切なのは、この世の根源が一つということが、心底分かっているかどうかです。人間の浅知恵で、ルールを作るのではなく、二元論のもたらす運動の性質を正しく知り、その上で、お互いに悟ったことを行動していけば、対立はやがて大きな建設に向かいます。

そして、そういう考えをもったリーダーが活躍できるのが、「みろくの世」の姿なのです。

一元に還る。

「今だけ、金だけ、自分だけ」の世界は崩壊する。
今だけじゃない、過去も未来もある。
金だけじゃない、あらゆる伝統の価値観がある。
元の一つに還るだけ。

掲載文は、平成27年1月21日に航空会館（港区新橋）で開催した「大本公開講座」講演録の要旨です。

東光苑春季大祭

東光苑春季大祭は、4月12日午前10時30分から、教主さまご臨席、斎主・出口眞人氏のもと執行され、610人が参拝した。祭員は各主会祭務部長、少年祭員は、神奈川主会の下向菜々美さん、草野友哉くん、千葉主会の武山なおひさん、あおいさん姉妹。伶人は宮咩会関東支部が担当した。

午前9時過ぎ、教主さまは東光苑にご到着され、高野社中が添釜を担当する、東光庵にご入席された。

祭典は伶人・祭員入殿の後、祓式行事、献饌と進み、教主さまがご昇殿。斎主が「東光苑春季大祭祝詞」、「大三災小三災鎮静・東日本大震災復興・放射能汚染並びに原子力発電終息祈願祝詞」、「TPP交渉即時撤退祈願祝詞」を奏上した。次いで玉串捧奠に移り、教主さま、斎主に続き、各代表者と誕生月の参拝者が敬けんに玉串をささげた。その後、教主さまご先達で感謝祈願詞を奏上、讃美歌を斉唱した。引き続き、市杵島姫命礼拝にうつり、教主さまのご先達で天津祝詞を奏上し祭典を終了した。

祭典後には、木村郡志千葉主会次長が『大本神諭』を拝読。続いて、浅田秋彦本部長と、出口眞人氏が、それぞれあいさつを述べた。その後、能舞台では、宮咩会関東支部による八雲琴『岩笛曲』と神奈川主会青少年部による朗詠が奉納された。

直会後には、教主さまから中学生以下の少年部員と幼児にお菓子が手渡された。

その後、教主さまはご神前で、参拝者とのご面会をお受けになり、親しくお声を掛けられた。

午後4時40分、教主さまは多くの参拝者のお見送りをお受けになり、東光苑を後にされた。

また、前日の11日には、都内で「教主さまをお囲みしての夕食会」が開かれ、関東在住の青松会員と青年部員ら56人が参加し、和やかな一時を過ごした。

教主さまご先達で感謝祈願詞奏上

一人ひとりご面会いただいた

新入信徒研修会（春の集い）

新入信徒研修会（春の集い）は、4月5日午前9時30分から、東京宣教センターを会場に開催され、遠近各地から15人が参加。

参加者は、実習「お礼拝の仕方とその心得」、講話「大本の使命とご神業奉仕」「まつりについて～神さまへの感謝と祈り～」「信仰生活のあり方～ご神書・機関誌紹介～」を受講したほか、基本宣伝歌の拝誦と愛善歌の実習、茶席入席、お作品拝観、総合質問会を行った。

参加者からは、「大本のみ教えの一端に触れることができてよかったです」などの声が寄せられた。

大本公開講座

第146回『大本公開講座』は、4月15日午後7時から、港区新橋の航空会館で開催され、田辺謙二・大本教学委員が「霊界の実在と永遠の生命―この世で学ぶ〝あの世〟の話―」と題して講演した。参加者は33人（内、一般12人）。

講座では、天国に行くには常に省みて、自分の良心に従って進むことが大切だと説いた。

参加者からは、「霊界の様子を聞いて、生きている意味を知った（男性・一般）」等の声が寄せられた。

生きている間の努力が大事

東光苑祭典・行事予定

5月

4日（祝・月）午前10時30分執行
教主生誕祭・三代教主（113年）教主補（118年）聖誕祭

5日（祝・火）午前10時30分執行
開教123年 みろく大祭遥拝祭

10日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭

20日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
講題 日本人と〝はらい〟
～目に見えないものを大切に生きる～
講師 成尾 陽（大本教学委員）

6月

14日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・人類愛善会創立記念祭典・市杵島姫命例祭

17日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
講題 祝詞のこころ
～神に奏上する言霊～
講師 出口眞人
（大道場講師・社会福祉法人愛善信光会理事長）

28日（日）午前10時～午後4時
東京本部直属信徒研修会

大本東京本部ホームページ
URL http://oomoto-tokyo.com